



— 発 行 者 —  
 福島県公立学校退職校長会  
 福島支部長 鈴木 昭 雄

— 編集広報部 —  
 題 字  
 高橋 藤園

第121号

# コロナに負けない県北の教育

福島県教育委員会県北教育事務所  
 業務次長兼学校教育課長 笠原 聡 美

新型コロナウイルスの感染が  
 始まり、三年が経ちました。生  
 活は少しずつコロナ前に戻りつ  
 つありますが、各学校において  
 は、今もなお、感染拡大防止の  
 ために様々な対応をしていただ  
 いていることに、感謝申し上げ  
 ます。最近では、令和五年五月  
 八日から新型コロナウイルス感  
 染症を五類感染症とすることが  
 報じられたり、マスク着用に係  
 る判断が話題として取り上げら  
 れたりと、この感染症に対する  
 社会の受け止め方にも大きな変  
 化が見えてきました。今後、学  
 校の負担が少しでも軽くなるこ  
 とを願うばかりです。

さて、本事務所におきまして  
 も、この三年間、コロナ禍にお  
 ける事務所の在り方・役割が問  
 われてきました。そこで、「ピ  
 ンチをチャンスに」との思いで、  
 これまでの在り方を見直す良い  
 機会として捉え、指導の形態や  
 研修会のもち方を感染状況及び  
 開催の目的などを考慮しながら  
 検討し、時代に合った研修を考  
 えてきました。これまで参集型  
 で行っていた各種の研修をオン  
 デマンドで配信したり、ゲーグ  
 ルミートを活用して協議を実施  
 したりしたことで、参加者から  
 も「説明や解説を何度でも聞く  
 ことができたので、内容を理解  
 できた」「業務が空いている時  
 間に観ることができ、効率的な  
 研修だった」などの声が聞か  
 れ、有意義な研修となったこと  
 を窺い知ることができました。

反面、「授業は生き物だ」と  
 いう言葉に表されているよう  
 に、授業研究が含まれている研  
 修会の場合は、どんなにライブ  
 で授業を配信しても、教師の表  
 情、児童生徒の反応や一人一人  
 の達成感や困り感など、学校や  
 教室にいなければ感じ取ること  
 ができないものがたくさんあ  
 り、難しさを感じました。また、  
 協議ができる環境を整えたとし  
 ても、実際にメンバー全員の表  
 情や発言に対する反応等が伝わ  
 りにくく、実際に顔をつき合わ  
 せて話し合うよりも、深まりづ  
 らかったという課題も挙げられ  
 ました。

また、新採用研修などは、参  
 加者同士で悩みを打ち明けあ  
 い、励まし合ったり、アドバイ  
 スをもらったり、時には愚痴を  
 こぼし合ったりして、「横の絆」  
 を育む大切な場という側面もあ  
 ります。残念なことに、この三  
 年間はその絆を育む、絆を深め  
 る場を参集型で実施することが  
 少なかつたこともあつてか、新  
 採用の教諭が精神的に不安定に  
 なった事例も見られ、参集型の  
 研修会の大切さを痛感させられ  
 ました。

しかし、どんなに参集型の研  
 修が一番効果があり、目的を達  
 成する最善の手段であつたとし  
 ても、参加する先生方の「命」  
 や「安心・安全」を最優先にし  
 て研修等を実施するのが本事務  
 所の使命です。そこだけは譲れ  
 ない大切な柱で、学校運営の最  
 高責任者である校長先生方と相  
 通じるものではないかと思われ  
 ます。校長先生方も、学校行事  
 等で、児童生徒の命を守りなが  
 ら、価値ある教育活動を展開す  
 るために教職員とともに知恵を  
 絞り、創意工夫されてきたこと  
 と存じます。

その一例として、ある中学校  
 の校長先生が「中間テストをや  
 めた」とおっしゃっていたこと  
 が思い出されます。前例踏襲で  
 はなく、大切なことは守りつつ  
 も生徒や教職員が自分のもてる  
 力をさらに発揮できる環境を整  
 えてこそ、価値ある教育活動が  
 展開できるのだと、校長先生  
 のお話を伺って改めて実感しまし  
 た。

新型コロナウイルス感染症という正体  
 不明なウイルスがまん延し、学  
 校生活の様式や学習スタイルが  
 変化しても、校長先生方の児童  
 生徒の健やかな成長を願う気持  
 ちや教職員を大切にしている気持  
 ちに変化はありません。

本事務所といたしましても、  
 県北域内にある九十の小学校  
 (令和五年度は八十七校)、四十  
 の中学校、一つの特別支援学  
 校、そして十七の県立学校(令  
 和五年度からは十五校)に在籍  
 する児童生徒が健やかに成長で  
 きるよう、先生方を支援する  
 とともに、教育環境の整備に努め  
 てまいります。

# 今、高等学校では

福島県高等学校長協会 県北支部長

佐藤 弘 樹 (福島高校校長)

福島県公立学校退職校長会福島支部の皆様におかれましては、日頃より児童生徒の健全育成と学びの環境づくりにご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。今年度の高校現場の様子をご報告させていただきます。

## コロナと学び

昨年度までの二年間は「安心安全」を優先する判断から、各種行事が実施できない状況でありました。しかし令和四年度は、修学旅行や文化祭など、高校時代の大切な経験や思い出となる各種行事が、人数制限をするなどの工夫はありましたが、無事、実施できました。各校の話を聞いても、三年生の喜びはひとしおであったようです。この学年は入学式直後に臨時休校を経験し、二年生では修学旅行を中止した学校もある学年であります。また一つの気づきとして、各種行事において職員側が経験不足で混乱する場面もあり、今年度を実施できたことは、学校全体にとりまして本当にありがた

たかったと感じております。

また、急激に進展したICT教育につきましましては、今年度の一年生から生徒一人一台端末が実現し、新たな局面を迎えております。教材投影(受動)から協働学習(能動)へ、その活用も各校で進化(深化)が進んでおります。しかし一方では、SNS利用でのトラブルなど、発信する側のインターネットリテラシー習得が大きな課題となっております。

## 県立高校改革

前期計画(令和五年)として、今年度、ふくしま新世(福島中央と保原定時制)、来年度、伊達(梁川と保原)、二本松実業(二本松工業と安達東)が開校します。なお、後期計画(令和十年)では、令和九年に福島北と福島西の統合、他校も適性規模化(最大でも六クラスに)が計画されています。なお、統合につきましましては、少子化の現状を踏まえれば避けて通れない道ではありますが、特に校舎

を使わなくなる学校や地域の方々への丁寧な説明と対応が必要であるとの意見を、県教委に申し入れているところでありま

## 新学習指導要領の実施

今年度から新学習指導要領が年度進行で実施されます。これまで準備を進めてまいりましたが、実施をしてみても分かります。特に観点別評価につきましましては、指導と評価の一体化が進む反面、評価基準の一貫性、成績処理システムへの対応など、多くの課題を確認することとなりました。

未だコロナ禍の中。これから判断の背景にコロナはあり続けます。五類への変更や屋内でのマスク着用が個人判断に任せられる国の方針が示され、さらに複雑な状況も想定されます。そのような中でも、保護者の皆様と連携を密にし、生徒達の利益を最大限に保障する活動ができるよう努めてまいります。福島県の教育が、干支(兎)のごとく大きな飛躍を迎えられますよう、支部の皆様には、相変わらぬご理解とご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

# 賀寿万歳

## 佐久間幸良先生宅を訪問

十一月十日、佐久間幸良先生の賀寿祝に鈴木支部長、持地事務局長、根本理事が同窓吾峰会の渋谷支部長、古内評議員と一緒に訪問をしました。

案内された部屋には、世界各地の工芸品、人形、絵、写真、ペナントなどが棚や壁に所狭しと飾ってありました。海外百ヶ国以上を旅された土産です。

平成三十年度支部総会では講話をお願いしました。題は「ヒエログリフに魅せられて 古代エジプトの不思議に会う。」でした。趣味が古代エジプト学や旅行である先生は、たくさん写真や資料を映像で紹介しました。旅の話も交えて楽しそうに話されたことを覚えております。

先生の旅行した中で印象に残る所を尋ねると「南米パタゴニア。そこは、日本からあまりに遠い場所なので、家内を説得するのに時間がかかった。」と答えてくれました。出発前にダーウィン著「ビッグル号航海記」を読み、現地に行つてからはダーウィンの記述を思い起こしながらその土地の風景を観察されたそうです。興味に対する用意周到な準備やあくなき探求心を感じました。

満九十五歳の先生は、毎日早起きして生活のルーティンをこなしています。最近外に出る時間が減ったものの、ルームウォーキングをネットで見て購入し、運動不足解消に役立っているとのことでした。また、録画したビデオを視聴したり、夜間は学習に励んだり、庭の草木の世話をしたりと充実した生活を送つておられます。

現在お一人での生活ですが、娘さんが定期的に訪問してくれて、その時に「生活のチェックを受けている。」と嬉しそうに話されました。

身体頑健、好奇心旺盛、悠々自適の先生でした。



佐久間先生(左)と鈴木支部長(右)

# ふれあい広場

― 方部会員紹介 ―

## スクールアシスタント 事業と私

瀬上B 平野 哲哉

と述べられている。

庶務と広報を担当していた私は巡り合わせを感じて、スタートの時点からスクールアシスタントに登録した。以来、多くの学校にお伺いして学び合いの空気を吸わせていただいた。

本会福島支部の事業計画の中に地域教育の振興(2)教育振興・芸術文化活動 ○福島市教育委員会「スクールアシスタント活用事業」への協力がある。支部報87号(平成二十三年十二月一日発行)に当時の福島市教育実践センター所長佐藤吉郎氏が『スクールアシスタント活用事業』スタートに感謝」と題して「学校幼稚園を取り巻く状況が年々厳しさを増す中、大和田支部長様をはじめ多くの皆様方のご支援により、標記事業を新たにスタートさせることができた。」「十二名もの応募があり、○授業研究、教材研究等に関する指導助言 ○生徒指導に関する助言 ○教育相談に関する助言 ○合奏・合唱指導、読み聞かせ、子どもたちへの直接指導と多岐にわたりました。」また「現場からの感想に成果を感じ、改善すべきは意見や要望を参考にし、更に拡充を図りたい。」

平成二十六年三月十五日発行の支部報94号には「スクールアシスタント活用事業」ともに学び、高め合う子どももの育成」と題して中野小学校の取り組みが掲載されている。年数回の訪問に、「本校職員も、いつもとは違った第三者の視点から授業を、そして子どもたちを見つめることができ、授業や子どもの見方が変化してきたことを実感しており、以後の授業実践に生かしている。」との報告がなされている。

「トラブル続く教室 人手なく孤立」「感染対策やオンライン多忙に拍車」の文字が年末の新聞に散見された。もし何かのお役に立てるのであれば、もう少し続けて不易と流行の不易の部分教師文化の継承・恩送りをしようか迷っている。

県の会報「松風」第182号(令和三年十一月二十二日発行)に原稿依頼があったので、福島支部の学校現場への支援活動を「スクールアシスト事業」として継続していることを紹介した。昨年度末には、市教委の教育研修課より「本年度で十一年目となりました」「スクールアシスタント活用事業」では、ご多用にもかかわらず学校に向いていただき、懇切丁寧な依頼のありました。○小学校から「第三学年担任が初任者で」と具体的な内容の礼状をいただいた。

今年度は十二年目の事業が終了した。お伺いした中野小学校は、閉校になる。少子化により閉校して統合する学校が増している。コロナ禍対策を徹底し、子ども一人一人にタブレットを配付した授業改善など厳しい現場の環境を案じながら過ごしている今日この頃である。支部の積極的な支援活動を期待したい。

# チャンスを狙って

退職校長会福島支部のフォトクラブ・T(山寺精吉クラブ長)は、月一回定例会を開き作品の合評や情報交換など相互研鑽を深めたり、撮影会や懇親会などを通して会員同士の懇親を深めています。

今年度は新たに二名の会員が加わり、第七回目の作品展が「福島テルサ」を会場に十一月十日〜十三日まで開催され、活動の成果を披露しました。

二年間にわたり撮りためた「テーマを決めた作品」「日常のひとコマを切り取った作品」「技巧を突き詰めた作品」「自然の一瞬間を捉えた作品」などなど十一名の会員が前回より多い四十三点の作品を出品しました。

会場を訪れた人は会員から作品の説明を受け作品に魅了させられていました。



2022年 第7回 フォトクラブ・T 写真展

同田 貞夫 (北海道・利尻島)      高野 光揚 (国見町の中尊寺園)

出品者(会員) 皆様のご来場を心よりお待ちしております。

大橋 誠寿 岡田 貞夫 菊池 遼雄 熊田 正臣 小柴 治紀 高野 光揚  
高橋 忠 長澤 秀明 野崎 修司 矢銘 清孝 山寺 精吉

連絡先 フォトクラブ・T 代表 山寺 精吉 (024-559-0266)

# ふれあい広場

## クラブ会員紹介

### 釣れても釣れなくても

つりクラブ

蓬萊 佐久間 修

ここは檜原湖、ワカサギ釣りです。私の両隣には熟練のT先生とO先生。忙しそうにワカサギを釣り上げています。私はというと、竿先が揺れて歓喜の声を上げてリールを巻きあげてもさっぱり。両隣の釣果は百超え、私は数匹でした。遊漁料を釣った数で割ると一匹五百円の高価なワカサギでした。

これは今から十年前のつりクラブに入会した頃の話です。釣れなくても、楽しかったなという思いは今でも残っています。今では少し腕を上げて一匹五十円程にはなっているでしょう。動物や魚などの狩猟採集は、人類が生まれて以来続いています。縄文人は生存のための狩猟でしたが今はレジャーとその在り方を変えています。周囲を海に囲まれ湖や川に恵まれていますが、狩猟でも釣り人口は一番多いのではないのでしょうか。つりクラブでの釣行で魚が釣れなかったということは度々あります。ヒラメ釣りです。生きたイワシを餌として泳がせて釣る面白い釣りです。坊主で船から上がるとワカメを手渡されました。魚のいる場所を案内でできなかったという船頭さんのお詫びのしるしの品です。私だけでなく乗船者は皆釣れなかったのかと安心します。この釣りでは、何度か「ググツ」と激しいアタリがあったので、それだけで満足でした。

なんかできません。釣りの楽しみは無量大です。釣れても楽しいし釣れなくても楽しいのです。楽しい思いをさらに楽しくさせてくれるのが、つりクラブの仲間たちです。釣行を思い出深い充実したものにしてくれるのです。



座布団ヒラメではないけれど...

### テニスクラブとの歩み

万年青テニスクラブ

南沢又A 泉 清

定年退職の数年後、同期の友に誘われ、一緒に当クラブへ入会し、はやくも十八年になる。今は亡き当時の友と共にテニスを楽しめないのが、やや寂しいところではある。

さて、万年青テニスクラブは昭和六十年の開設以来、約三十八年を迎えることになる。開設三十周年記念行事を八年前に開催したが、その後、コロナ禍で記念行事を催せないでいる。

当時は、会員が約二十数名いて、和気藹々、週二回の午前中、二面のコートを利用し、活気に溢れていた。喜寿を過ぎても元気にラケットを握り、前後左右にボールを追う先輩の姿に心打たれ、自分たちもそうありたいと思いつつ共にプレーしたのが懐かしい。

ある厳寒期、除雪した雪の壁に囲まれたコートで、酷暑の夏は、冷水筒の水をがぶ飲みし、体に鞭打って「今日も元気で頑張れた!」と、辛さを楽しみのばねにして継続してやってきました。

こうした中、私たち世代の生きる知恵、生活術や情報を多くの会員から得ることができた。腕や足腰不調への対応や生活の知恵等々。そして、雄国沼、裏磐梯散策、スキー等々による懇親…。私は、浜通り生まれで、勤めも雪には縁遠かつたけれども、お陰で米沢、天元台、蔵王スキー場へと出掛け、楽しくスキートの醍醐味を味わうことができたのである。

しかし、こうした中、コートに通う車の運転に不安を持つようになつて、退会せざるを得なくなつた先輩の方々が見られるようになった一方で、クラブへの入会者が少なくなり、会員勧

誘の呼びかけをしているところでもある。

会津に「一生青春」という銘酒がある。いつまでも青春という心意気を感じられ、私たちの集いでこの想いをくみ取りながら、みんな、この銘酒を味わったところでもあった。

今こうして振り返ってみると、これまで急峻な山道を力の限りを尽して、山の頂を目指してきたような気がする。しかし、今はただ、広い裾野をのんびりとおおらかに下るといふ思いで、これからもできる限り、仲間と共に楽しくテニスと向き合っていきたいものと思っている。



平成20年度春季テニス大会 (令和3年度 会員数10名)

瀬上B 佐藤 浩哉

福島県公立学校退職校長会福島支部に入会させて頂いたいただき、ありがとうございます。

現在、再任用校長として桑折町立伊達崎小学校に奉職しております。伊達地区での勤務は初めてであり、町教委、町内小中学校はもちろん、地域の皆様にもいろいろと教えていただきありがとうございます。微力ですが、子どもたちのために尽力いたします。

コロナ禍で心配されることが多々ありますが、小学校教育の大切さを痛感しながら、少人数を強みに変えて、教育活動の充実に取り組んでおります。

今後とも、御指導よろしくお願いいたします。

西部B 唯木 常晴

四月からは渡利幼稚園にお世話になっていきます。新たな仕事に戸惑うこともあります。先輩の延長の皆様の助言、また、職員の協力、そして、素直な子どもたちにエネルギーをもらいながら過ごしています。

渡利幼稚園は、小学校と離れているため、プールをお借りしての水遊びでは、徒歩で移動します。子どもたちと歩き、また、一緒にプールに入る等、教諭時

代を思い出す出来事もあります。

今は、一月。出勤時に、寒さの中、朝の交通指導をされている校長先生方をお見かけします。車中から、心の中で、エールを送っています。

清水A 斎藤 剛

四月から新たな職場に勤務しています。「幼稚園」は未知の世界であり、特に幼児にどう対応すればよいのかが不安でした。しかし、勤務するとその不安はすぐになくなりました。子どもたちは自分の思いを包み隠さず表現し、付度や嘘がありません。そんな子どもたちと接していると、「幼児からの教育が大切だ」と強く思えてきました。そんな思いから参観日に時間を設定して、「子育ては大人の仕事」と題して講話を行いました。

新しい生活

飯坂B 岩下 聡

職挨拶の電話先の中に、「本当にも何もやらないなら、週二日位」と言っておくところがあり、「無職」生活は約一か月で終わることとなりました。自分の時間は増えましたが、何となく罪悪感を感じ、心から楽しめません。「長い間働いてきたのだから」と自分に言い聞かせても、気持ちがスツキリしないのです。同居老親の衰え、町内会の活動、農地・休耕地の草刈り等々、描いた退職後の生活からは遠い毎日を送っています。

四月一日に開業届を提出し、「個人事業主」という新たな生き方を始めました。事業名を「子どもと親の笑顔サポート『imacoco(いまここ)』」と言います。妻をパートナーに、試行錯誤しながらの起業です。

大きく変わったのは「人間関係」です。「ご縁」が新たな「ご縁」を生み、「世界」が広がりました。若い方の「なまかま」にも入れてもらっています。

特別区 加藤 知道

三月末日、翌日以降の事は何も決まっておらず、「そういうものか」と思いながら最後の日を過ごしていました。午後、退

児童委員」にもなり、地域の方との交流も生まれました。人生百年時代。夢と希望を胸に「いまここ」を大切に、「笑顔」で歩み続けていきます。

清水A 佐藤 秀美

昨年三月の退職後、四月から福島学院大学にお世話になりました。高等教育機関での勤務は初めてで毎日が新鮮でした。わずか半年間ではありましたが、コロナ禍にあっても澁滞としている学生の姿に触れ、改めて「教育は未来を創る仕事」との

思いを再認識するとともに、たくさんの方と先生方との出会いを通して幼児教育・保育の大切さを学ばせていただきました。

十月からは縁あって福島市教育委員会に勤務しております。微力ではありますが、私を育ててくれたすべての方々への恩返しのため、福島市の教育振興に取り組んでまいります。

松川 菅野 信幸

地震の震度や緊急連絡にも緊張することなく、また、「信幸先生」と呼ばれる生活にもようやく慣れました。

吉井田小学校退職後、再任用

教諭として杉妻小学校にお世話になりながら、センター方式の研修コーディネーターとして南方部六校の初任者研修指導に携わっています。未来の福島教育を担う若い教師育成のため、微力ながら精一杯取り組んでいきたいと思っています。

最後に、現在のマイブームは、サウナ通いです。日々の心身だけでなく「これからの人生をどう整わせるか」じっくり考えていきたいと思っています。

北部B 高島 秀一

福島南・福島中央高校で定年退職を迎えてから早くも一年が過ぎようとしています。時が過ぎるのが早くなるのを実感している日々です。

私は現在、母校でもある保原高校に再任用でお世話になっております。十六年ぶりの教諭生活です。最初に肝に銘じたことは、他の先生のお荷物にならないことと管理職をしてきたのにだらしなないといわれなことです。

ICTの対応や評価方法など課題はありますが、「生徒のため」を第一にして授業等に取り組み、「やればできる」を生徒と自分に言い聞かせながら過ごしています。

笹谷 齋藤 秀樹

研修コーディネーターとして、岡山小に勤務して一年が経とうとしています。

担当している六名の初任者と週一回、研究授業の指導をはじめ、生徒指導や学校教育全般の指導と多岐にわたる研修を行います。時には、初任者の悩みに耳を傾けることもあります。

本研修は、これまでの自分自身の教職人生を振り返る機会となり、改めて知見を広げる必要性を痛感しているところです。

六名の初任者との出会い、そして温かく迎え入れてくれた各校の先生方に感謝し、これからも自分にできることを精一杯行っていきたいと思っています。

笹谷 佐藤 成紀

四月から、就学前の子どもの発達相談をしています。幼い時期ですので、障がい受容が難しい保護者の苦悩や、お子さんの困り感に寄り添うことを大切にしながらの毎日です。就学時の適した教育の判断がお子さんのその後の一生を決めると言っても過言ではないことを常に胸に刻み、お子さんや保護者に今何をしてあげられるかを共



に考えながら過ごしています。子どもたちと過ごした現役時代の思いを忘れずに、今後子どもと接することができることに感謝しながら、共に歩んでいきます。

退職してある程度の期間が経過しておりますが、在職中は先輩、同僚の校長先生方には本当にお世話になりました。改めて感謝を申し上げます。

渡利 B 高橋 政広

定年を迎えて一息入れたいところでしたが、年金等の問題もあり、直ぐに新たな職場で勤務しております。学校教育から社会教育に切り替え、高齢者学級で生きがいづくりや健康づくりの支援を行っています。そういう場に出てくる方々は本当に元気で学ぶ意欲があります。

老後は家でゆっくりとなどと考えていましたが、社会や人と関わることの大切さを感じ、考えを改める機会になりました。

長寿祝い等記念品 贈呈者様紹介

◎長寿祝い

◆賀寿贈呈(満九十五歳 県)

昭和二年四月二日、

昭和三年四月一日生

永倉 彰郎様 佐久間幸良様

◆賀詞贈呈(満八十八歳 全国)

昭和九年四月二日、

昭和十年四月一日生

星 善吾様 長澤 徳子様

樋口 和史様 本田 邦夫様

高荒 敏明様 齋藤 弘様

◎叙勲・叙位

◆高齢者叙勲 (令和四年一月以降)

佐藤 正良様

三浦 賢一様

樋口 和史様

高荒 敏明様

鈴木 昭雄様

◆叙位叙勲

永田 融司様

金澤 武男様

大槻 忠様

◆福島市教育功労者表彰

竹之下道子様

福士 寛樹様

岡田 貞夫様

星 善吾様

本田 邦夫様

齋藤 弘様

花澤 繁様

鳴原 忠様

佐藤 忠様

内藤 良行様

◎ご逝去会員様

(令和四年二月、令和五年二月)

次の方々がご逝去なされましたので方部理事・事務局が対応し弔慰を奉呈いたしました。

- 山田 善治様 砂子田敦博様
永田 融司様 花澤 繁様
高山 胤能様 金澤 武男様
鳴原 弥様 大槻 忠様
佐藤 暹様 阿部 総様
棚木 和夫様 海野 清瀬様
海上 彰様 高橋 忠様

編集後記

五月八日から新型コロナウイルス感染症二類からインフルエンザと同じ五類への移行が予定され、日常生活も少しずつコロナ前に戻りつつあります。

三年間の「不要不急の外出」が心の片隅に在り、外に出ることを控えているような気がします。そして寒い冬、尚更外に出るのが億劫な日々でした。春の日差しを求めて外に出かけませんか。

忙しい中、原稿をお寄せいただいた皆様には感謝申し上げます。

事務局より

◆第59回福島支部総会

- ◎日時 4月21日(金)
第1回理事会 9時30分～
総会 10時30分～
◎会場 アオウゼ 大活動室
◎総会内容
○長寿記念品贈呈
○協議
・令和4年度事業報告
会計報告
・令和5年度事業計画
予算案
・役員改選
◎出席者
理事 役員
事務局員(常任理事)

意見や提案がありましたら方部担当理事まで。

◆第57回郡山大会

- ◎日時 6月14日(水)
10時30分～14時55分
◎会場 ビューH アネックス
◎大会次第
○開会式
○講演 安積国造神社宮司
安藤 知重様
○演題
「幕末や明治の偉人を育てた儒学者・安積良斎」
◎体験発表
○福島、南会津、相馬
福島支部からは穴戸仙助先生がNPO法人「シーエスアールスクエア(輝く学校広場)」での活動の様子を発表いただく予定です。
◎大会宣言
◎閉会式
福島支部へは15名の参加要請があります。希望者は方部担当理事へお話しください。